



八雲神社

能持院は、この地で初めて茂木氏を名乗つたとされる茂木家の祖・八田知基（茂木知基）が1222年に創建した曹洞宗の寺院。もともとは茂木氏の菩提寺であったが、1610年に細川興元が茂木に封ぜられてからは、細川家代々の菩提寺となつた。境内に今も残る細川家墓所は県指定史跡になっており、寺院の入り口にある文明年間の建立とされる総門は県有形文化財に指定されている。



市街地を整備した
藩主細川公のルーツは、
栃木県茂木町にあつた。



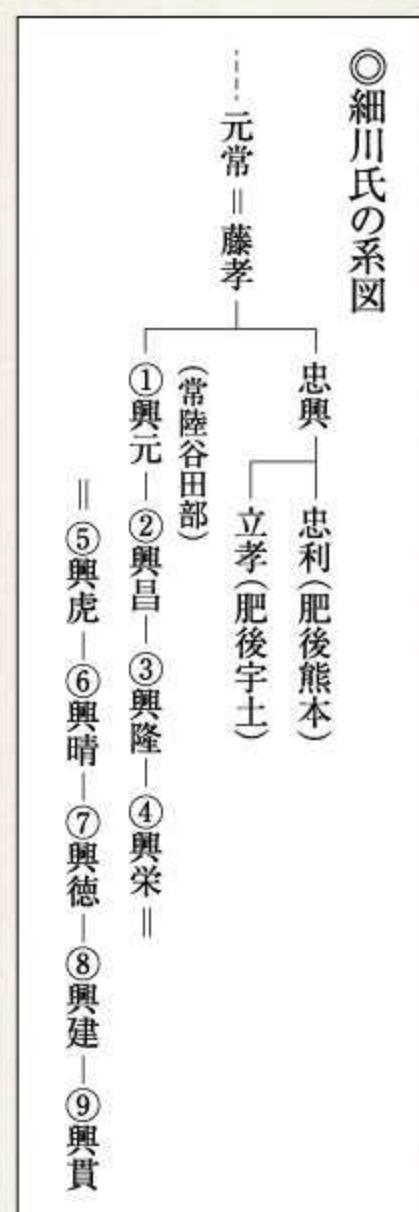
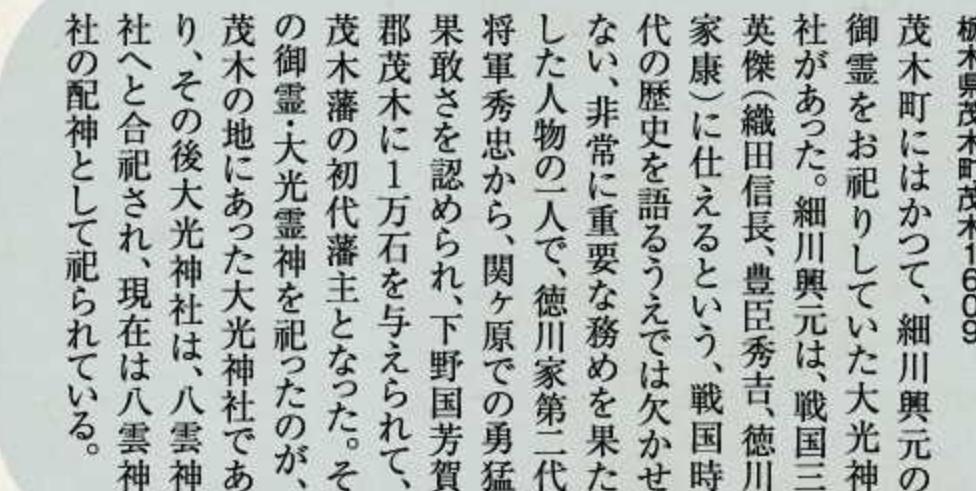
カネラ

祭神は素戔嗚尊(スサノオノミコト)。旧村社。江戸初期の建立。境内には大六天神社、稻荷神社が祀られている。毎年7月下旬に、八坂神社をスタートして、神輿を担ぐ祇園祭が開催される。



小源山照明院
医王寺

本尊は阿弥陀如来、弘法大師の作と伝えられる。大同年間（806～810年）の開山とされる。元和2年（1616年）、細川氏が谷田部に封ぜられると、陣屋の鬼門除けの祈願寺として改めて開創。薬師堂は、天正年中（1588～1591年）、由良氏が先祖の岡見氏の先祖を供養するため開いた、七觀音八藥師のひとつ。昭和61年（1986年）の再建。境内には弁財天を祀っている。



して出陣した。その後、徳川秀忠に召し出され慶長二五年（1610）七月一七日、下野茂木二万石を給せられた。

○石余を加贈され、茂木と併せて
一万六〇〇〇石余の大名となつた。
その後、**興元**は、兄が一〇万石を固
辞した話を伝え聞き大いに立腹
し、それ以後数百年に亘つて熊本
五四万石の本家と不和になつたと
言われる。

谷田部陣屋の設置

細川氏の下野茂木領は江戸から三六里(約140km)もあり、交通がきわめて不便であつたが、新しく加贈された谷田部領は、江戸から五里(約60km)で道路も平坦だつた

天保二年（1840）における藩士の数は、江戸屋敷五八名、茂木陣屋四七名、谷田部陣屋四三名、計一四八名であつた。この他に奥女中、足軽、門番、水汲、大工など二八名、扶持を与える寺院、出入商人など三〇名で、合計二〇〇名であつた。

城下町の形成

元の子興昌は本城を茂木から谷田部に移した。おそらく経費の関係で参勤交代の便を考えたものと思われる。興昌は陣屋を設置するに当たり、台地にあつた中世の砦、谷田部城跡（古館にあつた熊倉館跡）ではなく、集落に続いた低地を選び、敷地は六八〇〇坪（約22000m²）で北方と東方に堀をめぐらし、門を入った正面に二〇〇坪（約400m²）の陣屋を建てた。

つくば市谷田部1486-5
不動尊の創建は不詳。
境内に「記念碑」あり。

つくば市谷田部1486-5
不動尊の創建は不詳。
境内に「記念碑」あり。

